

# 令和5年度赤穂中学校キャリア教育のまとめ

上伊那教育会 キャリア教育委員会  
赤穂中学校

## 1 はじめに

キャリア教育とは、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることにある。したがって、キャリア教育は、子ども・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものである。自分が自分として生きるために、「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子ども・若者の姿なのである。これらのことをふまえ、平成23年に中央教育審議会はキャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義した。 (『文部科学省 キャリア教育』より抜粋)

キャリア教育が目指す「自立」と4つの基礎的汎用的能力が以下のように示されている。

### 基礎的汎用的能力

- 1 人間関係形成・社会形成能力
- 2 自己理解・自己管理能力
- 3 課題対応能力
- 4 キャリアプランニング能力

これらの能力の育成のために、赤穂中学校では次ページ以降に紹介するような活動を中心に、学年・学級ごとにキャリア学習を進めてきた。

また、今年度から「個人追究」に力を入れ、年8時間+夏休みを利用して図書館を使った調べる学習コンクールに全員が出展することを目標に活動を行った。

#### <目的>

実社会や実生活の中から

- ①問いを見いだし、自分で課題を立て、
- ②情報を集め、
- ③整理・分析して、
- ④まとめ・表現すること

ができる赤中生になる。

#### 全8回

- ①：6/16 オリエンテーション&テーマ考案
- ②：6/23 テーマ決め & 交流 (クラスの班で共有)
- ③：7/21 夏休みの計画
- ④：8/25 まとめ (レポート作成) ①
- ⑤：9/15 まとめ (レポート作成) ②
- ⑥：9/22 学級内発表会①
- ⑦：10月上旬 学級内発表会②
- ⑧：10月下旬 学年発表会

実践初年度ということもあり、教員も手探りの状態であったため、来年度に向けて次のような課題が挙げられた。

- ・コンクールへの出展を目標としたが、テーマによっては本がないものがあるため、何か別のゴールを設定し、分けて活動を行いたい。
- ・発表の場がなかったので、文化祭での発表を視野に入れて活動時期を早めたい。
- ・情報の羅列で中身がないものが多い。指導の方法や進め方についてさらに検討する必要がある。

来年度も継続していくため、これらの課題を活かせるような探究活動を実施していきたい。

## 2 各学年の実践

### ◎1学年『2023キャリアフェスティバル in 駒ヶ根』

#### ①目的

##### (i) キャリア学習として

日常生活の中で得られる様々な経験（キャリア）を生かして、自立を目指し、自分らしい生き方を考える力をつけていく。また、生徒一人一人が夢や自分の将来について大まかな見通しをもつことができるようにする。

##### (ii) 職業学習として

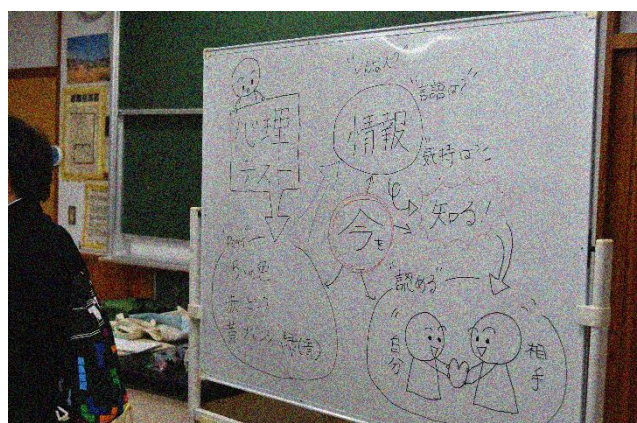
「人はなぜ働くのか」という問いに迫ろうとする生徒たちが、事業所などの職場で働く人からのお話を聞いたり、職業の体験をしたりすることを通して、自己理解を深め、働くことの意味を実感し、進路選択の手がかりとする。

#### ②当日の様子・生徒の感想

上伊那で働いている様々な職種の方を講師として、講座を開いていただいた。生徒は1人2講座を周り、体験や質疑応答を含むキャリア学習を通して学びを深めることができた。

今年度は、駒ヶ根東中学校と合同で行った。実行委員会は拠点である赤穂中生徒が行い、意欲的に当日までの準備を進めた。当日は東中の生徒と一緒に、のブース準備・進行・片付けを行ったりするなど、充実した活動となった。

<キャリアフェスティバル各ブースの様子>





医療・整体のこともしたし、他にもどうしたらこの仕事に就けるかとか中学校卒業からどのような道のりで今の仕事に就いているかなどが聞けたし、その他にも社会に出て必要なことなどをいっぱい教えてくれました。例えば「決断を間違えたときは自分の力不足」「人の印象は最初で決まる」という2つの話は自分の中で特に大事だと思いました。

誰にでも決断を間違えるときはあるけどその時は人のせいにするのではなく自分の知識量が足りなかったから間違えたからしょうがない。人の印象というのはひと目見ただけで「優しい人だな」「挨拶してくれないな」とかだけで決められてしまうのでいつも見られていると思いつつも善い行いをしなければいけないと聞きました。とてもよい機会をもらったと思いました。

### 「何事も楽しむ」

生活でもスポーツでも、つらい時、うれしい時そう感じている今は大人になっていくといい思い出になるから何事も楽しむといいと言っていました。自分がつらい時そう思えるかはわからないけど楽しむ心を忘れないようにしたいです。楽しんでプレーしたいです。

### 「努力は才能を作る」

努力を沢山したら才能がついてくると言っていました。生まれたときの才能ではないということです。自分は口だけになって自主練ができていないときがあると思うので努力を沢山したいです。練習は5分、10分であろうとできることをずっと毎日続けていくことが大切。

夢に向かって続けることは難しい。けれど続けたからこそ夢に近づけた。続けることはとても大切だということがとてもわかった。

イラストレーターの講座ではイラストレーターの大宮のぞみさんから貴重なお話を聞きました。その中で特に面白かった話が2つあります。

1つ目は『イラストレーターをやっていて嬉しいこと・良かったこと』についてです。

まず、嬉しいことは「お客さんとイメージが共有できること」と「色々な人と話せること」だそうです。イラストレーターはお客さんの依頼を形にする仕事です。多くの人からの依頼を受けるので色々なお客さんと話す機会があります。その中でイメージと自分が描いたイラストが合うと嬉しいのだそうです。次に、良かったことは「家にいられること」大宮さんはお子さんがいらっしゃるので子供に何かあったときすぐに駆けつけられたりなどの変化に対応できるからだそうです。嬉しいことや良かったことは人それぞれですが実際にイラストレーターをやっているひとから聞くと説得力があって面白かったです。

2つ目は『どうしてイラストレーターをやりたいと思ったか』です。大宮さんは「勉強しないでずーっと絵だけ描いていられればいいのに」と思ったからだそうです。イラストレーターは収入が不安定なので副業として働いている人は少なくありません。そんな中で本業としてイラストレーターをやっていて大宮さんは「絵をものすごく好きだからなんだな」とお話を聞いて改めて思いました。

## 2 学年「職場体験学習」

### (1) 目的

- ・キャリア教育の一環として、将来社会の一員になるという自覚を高めると共に、社会人としてのあり方やマナーにふれることで自らの生き方を振り返り、自分らしい進路選択や職業選択を実現していくための手がかりにする。
- ・社会に出ることの意味を考え始めた生徒たちが、調べ学習や聞き取り調査、事業所などの職場で実際に体験したり働く人々と接したりすることを通して、自己理解を深め、働くことの意味に気づき、進路選択のための手がかりとする。

### (2) 今年度の実施計画

日程	内容（・教師、○生徒）	時間
4 月	・体験学習を行う上での心構えの事前指導 ○事業所とのやりとりによる、打ち合わせ日時の決定	1
5 月 10 日 (午後)	○事業所への訪問と打ち合わせ	1
5 月中旬	○グループ打ち合わせ会 (持ち物・交通手段・マナー確認、調べ学習) ・学習のまとめ、生徒用お礼状のテンプレート作成	
24・25 日	○職場体験学習	2 日
6 月中旬	○お礼状の作成 ・お礼状の送付	1
6 月下旬	○職場体験学習のまとめ作成	2

### (3) 学習の様子・生徒の感想

2 学年では昨年度より「世の中にどんな職業があり、それはどのような仕事をしているか。その職業がどんな専門的な知識や能力が必要なのか。自分はどの職業に、どんな働きがいや誇りを見いだしたいか」を知り、体験し、学ぶことで「職業観を高める」ことをテーマにしている。職業観は一人ひとり異なる。職業（働くこと）についての自分なりの職業観を知るため、この学習を通して自分の進路選択に向けて職業観を高めるために、キャリア学習を行ってきた。

体験学習当日は二日間という限られた日数ではあったが、仕事を体験する事を通して、働く上での心構えや厳しさ、責任感、仕事の意義など生徒は多くのことを学ぶことができた。



**ま**  
**と**  
**め**

二日間を通して改めて車の仕事は人の命がかかっていることを学びました。仕事は一つ一つの仕事に責任を持ち、最善を尽くすこと、遊びでは存りことが分かりました。

「はたらく」ということは、最初は嫌々やっているイメージだったが、嫌な顔してやる人がいなくて、むしろ優しい人が多くいて、自分が人のため社会のために貢献するということに誇りを持ちました。



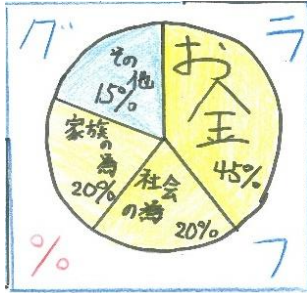
**なぜ？**  
**働くのか？**

私は、なぜ働くのだろうと思いました。自分かと思うには、生活するためにだし、誰かのためなのかはと考えると、不識に思いますが、ネイリストさんに聞いておたところ、お客さんに喜んでもらうためや笑顔が見れるからだと聞きました。誰かのために仕事をすることで働く意義があると思えました。

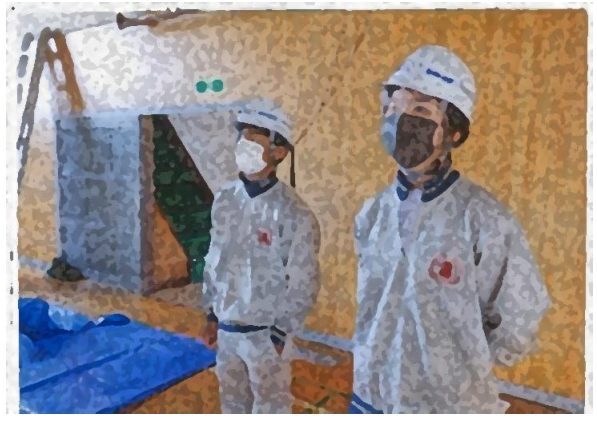




「お金の為、生活して  
働くこと」  
たかこの2日間の体験を終え「普段自分達が社会のためにやっている人のためにやることだ」と思った。イカチ塗装でも、普段でしかないような大工の仕事をさせてもらい、たりしたりの働くことは、みんながでまぬいようなことと覚悟するということがあった。  
また、イカチ塗装でどうして、やりかえ九條の達成感、気持ち良さ、これは仕事ではないと味あえない、お金の一つがもしも無いと思つた。今の自分の働く思いをひらいてみる...



ためただけで働いている家ではないのかなと思つた。人によって何のために働いているかが違うと思うけど、多くの人が仕事をやりがりで楽しんでいるのを見て思つた。仕事は大変だと思つたけど、楽しいことや、やりがいもあると思う。自分も、自分の力で生きていけるようにしたい。日本が三大義務をこなすことと、自ら働いてみる。



働くとは  
職場体験を通して職業観が変わりました。職場体験に行く前は仕事は生活するため、お金のためと思つていました。しかし、職場体験を通して働いている人を見て、楽しそうなんだから、働いている人は地獄に落ちるや人のためになるなど、やりがいを感じている人が多く、お金のための生活のため、お金の

### 職場体験を通して...

今回の職場体験を通して、テーマである、「働くことの意味」について考えた。自分自身、お金を稼ぐことや、社会のために働くことの意味について考えた。自分自身、お金を稼ぐことや、社会のために働くことの意味について考えた。自分自身、お金を稼ぐことや、社会のために働くことの意味について考えた。

色んなことを学んで、それを最大限に発揮する場所があるのかな、と考える。少しだけ進んでしまつたが、この職場体験を通して、普段見えないような、大人の世界の一面を垣間近に見ることができ、感じることができた。そして、この人達から学ぶことがたくさんあるな、と思う。



感想  
私は、今回の職業体験で学んだことが2つあります。  
1つ目は、どんな仕事も大変なものであること。手や腰を痛めたことでも、一切嫌な顔もせず、取り組んでいくという姿勢。  
2つ目は、どんな仕事でも自分の力を取り出すことで、職場体験が充実するということです。  
私は、この2つのことを心にかけ、これからも頑張ります。

## ◎3 学年『学級白鈴』

### ①目的

#### (i) キャリア学習として

日常生活の中で得られる様々な経験（キャリア）を生かして、自立を目指し、自分らしい生き方を考える力をつけていく。また、生徒一人一人が夢や自分の将来について大まかな見通しをもつことができるようにする。各クラスで分かれたテーマであるが、それぞれのテーマを追究する中で、人との関わりかたや考え方を学んだり、地域の見方を広げたり、それぞれの立場にたって、その人たちに思いを寄せることができるようにする。

### ②各クラスの活動

- 1組：福祉学習（社会福祉協議会と連携）手話、車椅子体験、視覚・聴覚障害について・福祉施設訪問
- 2組：小学生との交流
- 3組：保育園との交流、昆虫食について
- 4組：天竜川河川清掃
- 5組：駒ヶ根市の魅力再発見
- 6組：製作・販売活動
- 7組：駒ヶ根市の美化活動（ごみ拾い）

### ③各クラスの活動の様子から 各学級でテーマを見出し、活動を行った。

#### 【1組の福祉学習】

車椅子体験や、視覚・聴覚障害者の人たちのことを考える学習を通し、その人たちの生活上の困難さを学ぶことができた。その人たちがどういう場面で困り感があるのかを考えるきっかけになった。施設訪問では、高齢者とできるエクササイズやコミュニケーション手段を知ることができた。

#### 【2組の小学生との交流】

小学一年生との交流では、七夕飾りを一緒に製作した。小学生の立場になって、どんなものを作りたいのか、どう作るのが楽しいか等、親身に寄り添うことの大切さを感じながら活動することができた。

#### 【3組の幼稚園交流、農家の手伝い、昆虫食についての学習】

幼児との交流では、幼児との関わりかたや、遊び方など、子どもの気持ちに寄り添って考える機会となった。昆虫食学習では、上伊那農業高校の先生を講師として招き、実際の活動の様子を学んだり、ザザムシふりかけを肉食したりすることを通し、昆虫がどのように食として提供されるかの過程を知ることができた。農家の手伝いでは、ご協力いただけそうな農家さんを探したりし、予定確認や電話内容を事前に準備し、約束を取り付ける等社会に出てから役立つマナーについても学ぶことができた。

#### 【4組の河川清掃】

天竜川の河川清掃及び、微生物の調査を行った。河川のゴミの多さに気付き、自分たちもゴミの扱いに気をつけなければいけないと考えるようになった。また、ゴミを拾ったり、河川をきれいにしたりする活動を通し、その楽しさや気持ちよさを感じ、他の人ともそのやりがいを共有したいと考えた。

### 【5組の駒ヶ根市の魅力再発見】

自分達が暮らしてきた地元の良いさをいろんな角度から見て、興味をもったところの魅力を伝えていけるように考えた。

以下のグループに分かれて、調査等を行った。

- ・サイクリングで観光名所を回る
- ・駒ヶ根市のおいしいお店をまとめてパンフレットにする
- ・地域の人達と交流する（保育園）
- ・ごま、特産品の魅力を伝える（国産のごまを栽培して売っていることのアピール）
- ・鈴蘭ソフトをつかった新しいスイーツを開発する
- ・物作りをして売る→駒ヶ根市の環境を良くする

暮らしている自分達が駒ヶ根市の魅力を知り、深めることで、これから自分の生活範囲が広がっていく中で、その良さ

を多くの人達に伝えたいと考えるようになった。

### 【6組の製作・販売活動】

生活に役立つインテリアグッズの製作活動を行い、駒ヶ根市のお祭り KOMA 夏に出店した。製作を通して、売り手、買い手のそれぞれの立場に思いを寄せて考えられるようになった。また、仲間と協力して作ることの良さを感じることができた。販売利益の一部をユニセフに募金したり、能登半島地震の被災地への募金活動に充てたりするなど、自分たちにできる社会貢献についても考えた。

### 【7組の駒ヶ根市内の美化活動】

「自分たちが暮らす駒ヶ根市は果たしてきれいなのか？駒ヶ根市をきれいにしたい」そんな問いから始まった。自分たちで、駒ヶ根市内を歩き、実際にゴミを集めて写真を取った。自分たちが予想した以上にゴミがあり、ゴミを捨ててはいけないという意識を改めて持つと共に、地域にゴミを捨てないための呼びかけなどが自分達に出来ることの一つだと考えるようになった。

## 3 今後の課題と展望

4つの能力の育成のため、各学年の特色あるキャリア教育を行ってきた。地域の社会人といった、身近な人から直接“キャリア”を学ぶことで、人生観や仕事のやりがいについて深く考えることができている。

来年度も今年度の学習の取り組みをブラッシュアップし、生徒の基礎的汎用的能力の向上を図っていきたい。そのために、自己理解を深め、これからの人生について“自分で”選択をし、選択をした進路に責任を持てるような生徒の育成が図れるようなキャリア教育を計画・実施していく。